# かわさき発見

## 川崎の教育80年の歴史　各学校の歴史

Part1

今年は、大正13年に川崎市が誕生してから、ちょうど80年になります。そこで今回は、各市立学校がどの時期にできたのかを年表にしてみました。

学校は、人口増加に伴って増えてきました。川崎市が誕生した大正13年には、市の人口は約5万人でしたが、現在は130万人にもなっています。特に終戦（昭和20年）から昭和50年頃までは急激に人口が増加したため、あわせて学校も増えています。川崎市が政令指定都市になり、人口が100万人を越えたのも、昭和47年頃でした。

凡例
- 川崎区
- 幸区
- 中原区
- 高津区
- 宮前区
- 多摩区
- 麻生区

| 年 | 小学校 | 中学校 | 高・養護・聾・養護校 |
|---|---|---|---|
| 明治5年 | 向丘 | | |
| 明治6年 | 大師、小田、川崎、登戸、生田、御幸、柿生、野川、宮崎 | | |
| 明治7年 | 菅 | | |
| 明治10年 | 田島 | | |
| 明治12年 | 稲田 | | |
| 明治33年 | 住吉 | | |
| 明治34年 | 中原 | | |
| 明治37年 | 玉川 | | |
| 明治44年 | | | |
| 明治45年 | 高津 | | |
| 大正3年 | 橘 | | |
| 大正10年 | 宮前 | | |
| 大正13年 | 大島 | | |
| 大正14年 | 旭町 | | |
| 昭和2年 | 幸町 | | |
| 昭和3年 | 渡田 | | |
| 昭和7年 | 日吉 | | |
| 昭和10年 | 桜本 | | |
| 昭和12年 | 川中島 | | |
| 昭和13年 | 南河原 | | |
| 昭和15年 | 向、新町 | | |
| 昭和16年 | 大戸 | | |
| 昭和17年 | | | |
| 昭和19年 | 平間 | | |
| 昭和22年 | 古市場、上丸子、西生田、東柿生 | 大師、川中島、臨港、田島、富士見、玉川、住吉、中原、西中原、高津、宮崎、向丘、稲田、生田、柿生、御幸 | |
| 昭和23年 | 古川 | | |
| 昭和24年 | 殿町 | | |
| 昭和25年 | 東住吉、東高津 | 日吉 | |
| 昭和27年 | 浅田 | | |
| 昭和28年 | 四谷、新城 | 渡田、塚越、橘 | |
| 昭和29年 | 小倉、下沼部 | 南大師、川崎 | 商業、聾 |
| 昭和30年 | 藤崎、東小田、東大島、西丸子、久本 | 桜本、京町 | |
| 昭和31年 | 西御幸、苅宿、井田 | 南河原、井田 | |
| 昭和32年 | 東門前、東桜本、京町、戸手、下平間 | 宮内、西高津 | |
| 昭和33年 | 宮内 | | |
| 昭和34年 | 南加瀬、今井、末長 | | |
| 昭和35年 | 下河原 | | |
| 昭和37年 | 中野島 | 南加瀬、平間、中野島 | |
| 昭和38年 | | 今井 | |
| 昭和40年 | | | |
| 昭和41年 | 子母口、百合丘 | | |
| 昭和42年 | 大谷戸、東生田 | | |
| 昭和43年 | 久地、菅生 | | |
| 昭和44年 | 下小田中 | 東橘 | |
| 昭和45年 | 坂戸、久末、上作延、南百合丘 | | |
| 昭和46年 | 東菅 | 西生田 | |
| 昭和47年 | 木月、三田 | | |
| 昭和48年 | 河原町、梶ケ谷、有馬、富士見台、白幡台 | | |
| 昭和49年 | 南野川 | 菅生 | |
| 昭和50年 | 宿河原 | | |
| 昭和51年 | 宮崎台、千代ケ丘 | | |
| 昭和52年 | 犬蔵、南生田、長沢、虹ケ丘 | | |
| 昭和53年 | 鷺沼、平 | 宮前平 | |
| 昭和54年 | 西有馬 | 菅、南生田、長沢 | |
| 昭和55年 | 下布田、王禅寺 | 有馬、犬蔵 | |
| 昭和56年 | 西野川、宮前平 | 白鳥 | |
| 昭和57年 | 白山 | 野川、枡形、王禅寺 | |
| 昭和58年 | 長尾、真福寺 | 白山 | |
| 昭和59年 | 下作延、栗木台 | | |
| 昭和60年 | 夢見ケ崎、西梶ケ谷、片平 | 東高津 | |
| 平成61年 | 東小倉、新作、南菅 | 南菅 | |
| 平成2年 | 南原、稗原 | 平、金程 | |
| 平成3年 | 西菅、金程 | | |
| | 岡上 | | |
| | 麻生 | 麻生 | |

※昭和51年創立の学校までは、「続川崎教育史（学校沿革誌編）」（昭和52年発行）を参考にしました。

創立当時の大島小学校と堀江校長

## World Inspection 世界科見学　アテネオリンピック

マラソンコースはなぜ42.195㎞なの？

2004年はアテネオリンピックの年です。通信技術の発達により、海外で行われるオリンピックを、生中継で日本でも観戦することができますが、ギリシャと日本の時差は6時間。午後から夕方にかけて行われる競技は、日本では夕方から夜中の時間帯ということで、夏休みの間、寝不足な日々が続きそうですね。

オリンピックといえば、日本人選手の活躍が期待されるマラソンは誰もが知っている競技ですが、では、マラソンコースはなぜ42.195㎞なのでしょう？

紀元前490年、ギリシャ軍がペルシャ軍との戦いに勝利した時、一人の伝令係が戦場のマラトンから首都アテネまで走り続け、アテネの市民に勝利を伝えた後、絶命したという、ギリシャ史の伝説があります。

1896年、第1回アテネオリンピックの時、この伝説にちなんでマラトンの古戦場からアテネの競技場までの長距離走が「マラソン」という種目名で行われました。この大会では、ギリシャは花形の陸上競技で優勝者を出せないままに最終日を迎えてしまいましたが、大会最終日のマラソン競技で地元ギリシャの選手が優勝し、興奮したギリシャの皇太子と親王が貴賓席から飛び出してゴール直前を選手と一緒に走ったほど、ギリシャ国民は大興奮をしたそうです。

以降、マラソンコースの距離はだいたい40㎞程度ということで、大会によりまちまちでしたが、1908年の第4回ロンドンオリンピックの際、フラフラになって1位でゴールしながらも、途中、医師の介抱を受けたとして失格になってしまったイタリア選手の力走を讃えて、この時の出発点ウインザー城からゴール地点ホワイトシティ競技場の女王貴賓席前までの42.195㎞を正式距離とし、第8回パリオリンピックから統一されました。

## スポットライト　教育委員会の活動から

教育委員会は、教育にかかわる仕事が政治的中立を保ち、民主的・自主的に行われるようにつくられた組織で、現在6人の教育委員がいます。

平成16年3月31日付で黒田委員長と長谷川委員が退任し、4月1日から新たに宮田委員長と内田委員が選任されました。宮田氏は市立小学校で校長を歴任され、内田氏は教育文化会館運営審議会委員やPTA連絡協議会副会長としてご活躍されてきました。

宮田　進 委員長

内田　省治 委員

平成15年度の教育委員会は、計17回の教育委員会会議を開催し、川崎市の教育についての方針・施策に関する49件の議案を審議しました。また、川崎市社会教育委員及び川崎市PTA連絡協議会役員との懇談会を開催するとともに、「子ども夢パーク」「古市場小学校」「柿生小学校」「子育て広場ふるいちば」等を視察しました。

教育委員会定例会は、原則として毎月第4火曜日に開催しています。会議の傍聴もできますので、関心のある方は、開催日時・会場などの詳細についてお問合せ下さい。

お問合せ●教育委員会総務部庶務課
☎ 044－200－3266